

本時のねらい

(2位数) - (1位数) の筆算を仕方を考え、計算の理解を深める。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

- ・ロイロノートを活用して、「10のまとまり」を視覚的に明確にし、児童一人一人の理解を深める。
- ・情報活用能力における観点として、図や表から読み取る力、比較する力、資料の情報を整理して伝える力を身につける。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・大型提示装置
- ・ロイロノート

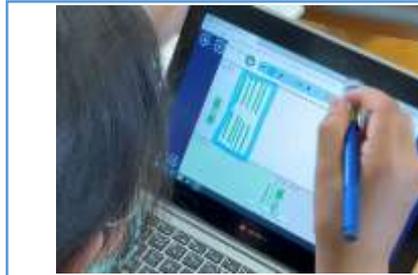
本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の復習をする。 ○本時の問題とめあてを確認する。 【問題】21-8 【めあて】21-8 を計算棒（数を数えるための棒）を使って考えよう。 ○タブレット上で立式し、計算棒を準備する。 <p>【写真1】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ロイロノート内で、計算の準備・作業をする。 ○計算棒を活用し、視覚的支援をする。
展開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを、計算棒で表す。 ○自分のより詳しい考えを、計算棒やタブレットのワークシートに書き込む。 <p>【写真2】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ロイロノート内の1枚のテキストに、必要事項（式・考え・具体物）を書いて、考えや作業をわかりやすくまとめる。 ○強調したい部分や作業している部分に、マーカー等で、書き込む。 ○前後の作業が把握できるように、テキストを追加し、連続資料にする。
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○全体で振り返り、まとめる。 <p>【写真3】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○児童それぞれのタブレットPCと大型提示装置に、児童の考えを映し、考えを全体で共有しやすくする。

1人1台端末を活用した活動の様子



【写真1】タブレット上で立式し、計算棒を確認している場面



【写真2】自分の考えを計算棒で表し、その理由や付け足したい内容を書き込んでいる場面



【写真3】児童の考えを、一人ひとりのタブレットと大型提示装置に映し出し、共有している場面

児童生徒の反応や変容

- ・普通のノートでは、自分の考えを書いたり図に表したりすることが難しいと感じる児童でも、タブレットPCを活用することで考えを表すことができる児童が増えた。
- ・ロイロノート上の計算棒を使用することにより、10のたばを細かく分けたり作業したことを戻したりすることなどがスムーズにできていた。
- ・色マーカーで印をつけたり、必要なところに文字を書き込んだりすることで、相手にも自分にもわかりやすく自分の考えを説明することができていた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・児童一人ひとりが作成したデータをまとめることができる「提出箱」を常時共有しておくことで、他の児童の考えをヒントにして、自分の作業を進めている児童もいた。
- ・ノートと同様で、タブレット上であっても、式や考え、計算スペース等を1つのテキストにまとめていると、計算の流れや結果が一目で把握することができる。そのため、児童は自分の考えについて説明しやすく、振り返りも容易にできていた。
- ・児童の思考の助けとなる説明は、口頭や板書をするのではなく、ヒントカードとしてロイロノート上で送る方がタブレット上のみで活動を進めることができ、視線の移動が少なく、作業効率も上がった。